

育ちの森 **子ども支援室「ぬっく」** 活動レポート 2020年 2月



子どもたちによりよい支援を

令和2年を迎え、あっという間に1か月が経ちました。新しい年度も間近に迫り、ご家庭やそれぞれの園・学校でも1年を振り返り、子どもたちと歩むこれからの道のりに思いを馳せていらっしゃるのでしょうか。

今年度の12月末までの子ども支援室への相談件数は、3124件(実人数は461人)でした。「子どもの激しい言動」「人との関わり・集団への参加の苦しさ」「登園・登校渋り」への対応についての相談が多くありました。困り感をかかえているお子さんによりよい支援を考え、悩みながらも寄り添ってくださっている保護者・家族・指導者の皆さん。子どもたちが自分に合った環境で健やかに成長していくためのお手伝いをこれからも続けていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



子ども支援室「ぬっく」の待合室・相談室・多目的室



2019年度の子ども支援研修会



7/24「発達特性をもつ子どもがいるクラスづくり」



長野県自立支援協議会会長
日本相談支援専門員協会顧問

福岡 寿先生

福岡先生が投げ掛けます。「個別に対応し、寄り添った保育をするのがいいと思いませんか」指示によって動くのではなく、行動の手がかりを見つけて動ける子にするための習慣づけ、環境づくりにこそ指導者は力を注ぐべきだと教えていただきました。

普段自分が行っている対応が、子どもの実行機能を妨げてしまっていることもあるのではないかと、反省することができた。子どもが自分で考えて行動する力を身につけられるようにしていきたい。(福岡先生の回の感想)

知らず知らずのうちに、「上手にできたね」などの褒め方をしていたと反省しました。努力すること、やってみることを大切に褒めることで、集中力のある子どもに育てていきたいです。(今井先生の回の感想)

11/1「注意の働きに偏りのある子への配慮と指導」

～脳の働きを踏まえた発達支援～

名古屋学芸大学 ヒューマンケア学部 准教授

今井 正司先生

集中する力をつけるためには、結果だけを褒めるのではなく、その過程を認めることが大切であることを教えていただきました。難しい問題を解いた子に「すごい！頭がいいね」よりも「諦めずに努力したからできたんだね」と声を掛けた方が結果を恐れずチャレンジする力を伸ばせるということを学びました。



今年度も教職員の皆さんを対象に子ども支援研修会を開催しました。子どもたちの抱える発達や行動等の問題に対応するための考え方や手立てをお二人の講師の方から教えていただきました。

2回の研修会に合計261人の方に御参加いただき、今後の支援・連携につながる大切な機会をもつことができました。